

平成24年度

事業報告書

社会福祉法人

四日市市社会福祉協議会

目 次

◎ 会務報告	1
◎ 総括	3
1. 市民啓発事業	
(1) 社協だより「かけはし」の発行	4
(2) 四日市市社会福祉大会の開催	5
(3) ホームページの更新	5
2. 福祉ボランティアのまちづくり事業	
(1) 情報収集と提供	5
① ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行	
② ボランティア団体会員募集一覧の作成	
③ ホームページの活用	
(2) 養成研修事業の実施	6
① 「はじめてのボランティア」説明会の開催	
② 夏休み子ども福祉学習会の開催	
③ 福祉教育推進事業・福祉教育への支援	
④ 教職員福祉教育講座の開催	
⑤ ボランティア交流会の開催	
⑥ ボランティアリーダー研修会の開催	
⑦ 専門ゼミナール及び出前講座の開催	
⑧ 学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携強化	
⑨ 四日市ボランティアフェスティバルの開催	
⑩ 子育てボランティアサポート事業の実施	
(3) 活動支援	10
① ボランティアコーディネート	
② 外出援助サービス保険料助成事業	
③ ボランティア活動保険の加入促進	
④ 全国ボランティアフェスティバルみえの参加支援	
⑤ 台風17号における四日市市内災害ボランティアコーディネート	
(4) ボランティアセンター基盤整備事業の実施	11
① 四日市市ボランティアセンター運営委員会立ち上げ準備事業の実施	
3. ふれあいのまちづくり事業	
(1) 地区社会福祉協議会支援	12
① 地区社協への運営費等の助成	
② 地区社協指導者研修会等の実施	
③ 福祉協力員等活動費補助事業の実施	
④ 地域福祉活動メニュー事業の実施	
(2) 地域福祉活動支援	18
① 福祉コミュニティの推進	
② 先駆的事業の開発	
・ 四日市市地域後見サポート事業の実施	

・なるほど出前講座の開催	
(3) 四日市市福祉教育大学の開講	19
①四社協福祉ゼミナールの開催	
②地域福祉ゼミナールの開催	
③専門ゼミナールの開催	
(4) 福祉総合相談事業の実施	20

4. 福祉事業

(1) 介護保険関連事業の実施	21
①居宅介護サービス事業（介護予防事業含む）の実施	
・訪問介護事業の実施	
②居宅介護支援事業の実施	
③介護保険認定調査業務の実施	
④通所介護事業「ゆりかもめ」（介護予防事業含む）の実施	
(2) 在宅福祉事業の実施	22
①地域福祉権利擁護事業の実施	
(3) 障害者自立支援事業の実施	23
①居宅介護事業の実施	
(4) 福祉施設等管理運営事業の実施	23
①中地域包括支援センター	
②くす在宅介護支援センター	
③中央老人福祉センター	
④障害者自立支援施設「共栄作業所」	
⑤障害者自立支援施設「たんぼぼ」	
⑥障害者自立支援施設「あさけワークス」	
⑦障害者福祉センター	
⑧障害者自立生活支援センター「かがやき」	
⑨視覚障害者福祉センター	
⑩障害者就業・生活支援センター「プラウ」	
⑪障害者就労支援事業ワークセンター	
⑫よっかいち福祉の店	
⑬おもちゃ図書館	
⑭母子福祉センター	

5. その他の事業

(1) 第4次地域福祉活動計画の推進	33
(2) 福祉サービス相談窓口の開設	33
(3) 東日本大震災等被災地支援活動	33
(4) 職員の安全衛生	34
(5) 資金貸付事業の実施	35
①生活福祉資金貸付事業の実施	
②資金貸付事業の実施	
(6) 実習生等の受け入れ	35
(7) 財政基盤の安定化	36
①社会福祉協議会会員会費	
②善意の基金	
③収益事業の実施	
・「喫茶ふれあい」の経営	

・「総合会館売店」の受託運営

④共同募金運動（三重県共同募金会四日市市共同募金委員会事業）の推進

⑤寄付金等

⑥資産運用

【会務報告】

理事会の開催

- ・第1回 平成24年5月28日(月) 午前10時～12時 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 理事及び評議員の一部変更について
2. 「福祉サービス相談窓口」における第三者委員の選任について
3. 平成23年度事業報告及び収支決算報告について
4. 平成23年度監査結果報告について
5. 定款の一部改正について
6. 就業規則の一部改正について
7. 給与規程の一部改正について
8. 在宅介護支援センター設置及び管理運営規程の一部改正について

- ・第2回 平成24年5月30日(水) 午後3時30分～4時30分 市総合会館3階会議室
議案 1. 会長、副会長及び職務代理者の選任について
2. 特定相談支援事業に係る運営規程の設置について
3. 障害者自立支援施設あさけワークス運営規程の一部改正について

- ・第3回 平成24年8月29日(水) 午後1時30分～3時30分 市総合会館3階会議室
議案 1. 評議員の一部変更について
2. 四日市市社会福祉大会における社会福祉功労者の表彰について
3. 指定管理施設の管理に関する情報公開実施規程の一部改正について
4. 第一種社会福祉事業施設処務規程の一部改正について
5. 職員衛生管理規程の一部改正について

- ・第4回 平成24年11月28日(水) 午後1時30分～3時20分 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 重度訪問介護事業所運営規程の制定及び居宅介護事業所運営規程の一部改正について
2. 特定相談支援事業に係る運営規程の一部改正について

- ・第5回 平成25年3月25日(月) 午後2時～4時 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 理事の一部変更について
2. 平成24年度収支補正予算について
3. 平成25年度事業計画及び収支予算について
4. 定款の一部改正について
5. 就業規則及び各種規程の一部改正等について

評議員会の開催

- ・第1回 平成24年5月29日(火) 午前10時～12時 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 理事及び評議員の一部変更について
2. 平成23年度事業報告及び収支決算報告について
3. 平成23年度監査結果報告について
4. 定款の一部改正について

- ・第2回 平成25年3月26日(火) 午後2時～3時30分 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 理事の一部変更について
2. 平成24年度収支補正予算について
3. 平成25年度事業計画及び収支予算について

4. 定款の一部改正について
5. 任期満了に伴う理事、監事の一斉改選について

監査の実施

平成24年5月21日（月）午後1時30分～4時30分 市総合会館3階会議室
平成23年度事業報告及び一般会計、特別会計の監査

平成24年度事業報告 総括

昨年12月の政権交代やこれに伴うアベノミクス効果による円安・株高が進み、わが国の経済及び雇用状況は改善の方向に向かいつつあるとされるものの、平成24年度は、長引く不況により社会的弱者である高齢者、障害者、母子・父子家庭、低所得世帯にとっては非常に厳しい状況にあり、現在においてもその厳しさは継続している。

また、障害児者福祉の分野においては、「障害者自立支援法」が平成25年4月から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」となり、障害児者の定義に新たに政令で定める難病等が追加される等の改善がなされ、現状に則した法になったとの評価もある。

このように、社会福祉の分野においては、法制度等の整備によるフォーマルなサービスの充実と社会福祉協議会の役割である地域福祉の充実が相まって「安心して暮らし続けることができる『福祉のまちづくり』」が実現できることから、「第4次地域福祉活動計画」（平成23年度～27年度）に基づき各種事業を遂行した。

特徴的な取り組み

○地域福祉関連事業

・子育てボランティアサポート事業

子どもに関するボランティア活動者のスキルアップとボランティア依頼者との連携を深めることを目的に講座を開催し、22名が修了した。

・地域後見サポート事業

市や福祉・司法関係機関との連携を図り、市民からの成年後見制度に関する相談や成年後見制度を必要とする人々の支援を行うとともに、制度の周知として出前講座（6回）を実施した。

新規相談245件（前年比55件増）、支援実績72件（前年比42件増）、受任支援（法人後見）7件（後見6【類型変更2件】、終了1：前年比2件増）を行った。

・地域福祉権利擁護事業

三重県社会福祉協議会の委託を受けて、地域福祉権利擁護事業を実施した。福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどの支援を行った。

ここ数年、県が示す専門員一人当たりの契約件数を大きく超えている。

契約件数は269件で、昨年度から30件の増。

○障害者福祉関連事業

・障害者就労支援事業ワークセンター

平成24年度から四日市市の委託事業として、主として四日市市役所から作業受注し、職場訓練を行った。18名登録し、内、2名が就労し、4名が就労継続支援事業所等へ移行した。

○高齢者福祉関連事業

・一次予防モデル事業

これまでの二次予防事業に加え、お達者クラブ（一次予防事業）を各在宅介護支援センターや健康ボランティアの協力を得て、地域展開をベースとした健康づくりを普及させるための取り組みを行った。4地区で24回実施し、452名の参加があった。

平成24年度事業報告の詳細は、以下のとおりである。

1. 市民啓発事業

市社協の事業の紹介や、市民にとって必要な福祉情報等をわかりやすく提供するため、広報紙を発行するとともに、社会福祉大会を開催し、市民の福祉意識の向上に努めた。また、ホームページを随時更新し、タイムリーな情報提供に努めた。

(1) 社協だより「かけはし」の発行

市社協事業の紹介及び報告、福祉情報の提供など市社協活動や福祉理解の促進、福祉啓発を目的として発行した。発行回数は年5回、各号約134,000部を市内全戸のほか、関係機関に配布した。同時に、希望される視覚障害者に、点訳かけはし(1回18部)、録音かけはし(1回28本)を発行した。

発行日	内 容
7月5日 第116号	[表紙:会長就任にあたって・視覚に障害のある人の自立と社会参加の支援] ・平成24年度予算、及び平成23年度決算の報告 ・会費のお礼、おもちゃ図書館まつりの案内 ・中央老人福祉センターの案内 ・母子福祉センターパソコン講座の案内 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・「全国ボランティアフェスティバルみえ」の案内 ・障害者福祉センターだよりWITH (四日市市障害福祉課からのお知らせ)
9月5日 第117号	[表紙:四日市市社会福祉大会の案内] ・四日市市社会福祉大会の案内 ・赤い羽根共同募金平成23年度のお礼と報告 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・中央老人福祉センターの案内 ・母子福祉センター・母子寡婦福祉会作品展の案内 ・四日市市社会福祉協議会正規職員の募集 ・障害者福祉センターだよりWITH (出前講座の案内)
11月5日 第118号	[表紙:赤い羽根共同募金のお祝い] ・平成24年度赤い羽根共同募金のお祝い ・夏休み子ども福祉学習会について ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・中央老人福祉センターの案内 ・三重おもいやり駐車場利用者制度の紹介 ・障害者福祉センターだよりWITH (第31回四日市市障害者大会の案内)
2月5日 第119号	[表紙:四日市市社会福祉大会開催] ・四日市市社会福祉大会開催の報告 ・母子福祉センター案内、作品展の報告 ・中央老人福祉センターの案内 ・たんぽぽ 避難訓練の報告 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・障害者福祉センターだよりWITH (障害者デイサービス利用者募集)
3月5日 第120号	[表紙:赤い羽根共同募金運動お礼] ・平成24年度赤い羽根共同募金運動のお礼 ・「よっかいち福祉の店」即売会のお礼 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・母子福祉センターパソコン講座の案内 ・ご存知ですか?あなたの町の民生委員について ・障害者福祉センターだよりWITH (プライベート録音の案内・障害者福祉講

(2) 四日市市社会福祉大会の開催

永年にわたり、社会福祉活動に功績のあった個人及び団体を表彰するとともに、講演をとおして広く市民に福祉について考える場を提供し、福祉意識の高揚を図った。

- ・日 時 平成24年11月6日(火) 午後1時30分～4時
- ・場 所 四日市市文化会館 第1ホール
- ・参加者 約700名
- ・福祉功労者表彰 28名13団体
 - ・四日市市長表彰 1名・2団体
 - ・四日市市長感謝 1名
 - ・四日市市長特別 2団体
 - ・四日市市社会福祉協議会会長表彰 20名・3団体
 - ・四日市市社会福祉協議会会長感謝 6名・1団体
 - ・三重県共同募金会四日市市共同募金委員会会長表彰 5団体
- ・講 演 二人三脚で乗り越えた介護の日々 ～今日も二人で～
- ・講 師 小山 明子氏(女優)

(3) ホームページの更新

市社協の組織や事業とともに、職員募集情報や各種講座案内等をよりタイムリーに提供できるよう努めた。アクセス件数は145,786件で、前年度と比べ42,238件増加し、市民等の福祉に関する関心の高さが伺えた。

【市民啓発事業 まとめ】

社協だより「かけはし」では、5回発行のうち、4回をフルカラーで作成するなど、市民にとってより読みやすいものとした。市民から記事についての問い合わせが増えるなど、市民の福祉啓発や市社協のPRに一定の成果がみられた。

「四日市市社会福祉大会」では表彰及び講演で、参加者アンケートからは、日々の福祉活動の励みになった、市内で頑張ってみえる取り組みがわかり、参考にしたい、などの声をいただいた。

また、ホームページの更新では、市社協や事業内容などについて、タイムリーでより分かりやすい内容に努めた。

福祉を取り巻くさまざまな環境の変化に伴い、家族構成や生活様式など市民の暮らしも大きく変化してきていることから、福祉課題もより身近なものとなり、市民の社会福祉に対する関心も高まってきている。

今後も引き続き、市民にとって必要な福祉の情報をわかりやすく提供し、福祉啓発に努めていく。

2. 福祉ボランティアのまちづくり事業

ボランティアセンターでは、市民相互の助け合いによる福祉のまちづくりを目的として、市民がボランティア活動に参加するために必要な啓発活動、学習や活動の場、各種ボランティアに関する最新情報を提供するとともに、ボランティアグループや個人ボランティアへの活動支援などに取り組んだ。

(1) 情報収集と提供**①ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行(月1回)**

ボランティアに関する事業や情報を掲載し、毎月20日に発行した(発行部数約1,500部)。

ボランティア団体や個人ボランティア、行政、一部企業等の各関係機関への送付や地域の掲示板への貼付などにより、ボランティア活動の周知に努めた。

②ボランティア団体会員募集一覧の作成

ボランティアセンターに登録している団体のうち、会員募集をしている団体を活動分野別に冊子としてまとめ、ボランティア希望者へ情報提供を行った。

③ホームページの活用

ホームページ上に、ボランティアセンター事業やボランティア募集などボランティアに関する

情報を掲載し、ボランティア活動の周知に努めた。

(2) 養成研修事業の実施

①「はじめてのボランティア」説明会の開催

これからボランティア活動を始めたいという人を対象に、ボランティア活動に関する基礎知識の習得と実際の活動へのつながりを目的に開催した。開催日時は、多くの方に参加してもらえるように、毎月3回、平日午前、平日夜間、休日午後とした。

月	開催日	参加者数	説明会内容
4月	10日(火) 19日(木) 28日(土)	10名	<全体説明> ①社協&ボランティアセンターの概要説明 ②ボランティアについての学習 ③市内ボランティア活動状況 ④ボランティア活動保険の説明 ⑤ボランティア募集状況 他 <個人対応> ①1対1で活動希望の聞き取り ②活動先との調整 ③見学への同行 ④活動中のフォロー
5月	8日(火) 17日(木) 26日(土)	5名	
6月	5日(火) 14日(木) 23日(土)	7名	
7月	3日(水) 12日(木) 21日(木)	44名	
8月	7日(水) 16日(木) 25日(土)	14名	
9月	4日(火) 13日(木) 22日(土)	5名	
10月	2日(水) 18日(木) 20日(土)	7名	
11月	6日(火) 15日(木) 24日(土)	14名	
12月	4日(水) 13日(木) 22日(土)	16名	
1月	8日(火) 17日(木) 26日(土)	9名	
2月	5日(火) 14日(木) 23日(土)	14名	
3月	5日(水) 14日(火) 23日(土)	17名	
年間	36日(内、出前講座1日開催)	162名	

②夏休み子ども福祉学習会の開催

市内の小学生(5~6年生)を対象に、水族館の工夫されている点に気づいてもらいながら、建物の設備や物だけではなく、相手へのちょっとした気遣いやお手伝いの大切さを学習し、福祉に関心を持つきっかけ作りになることを目的に開催した。

開催日	活動内容	参加数
8月8日(水)	みんなが楽しめる水族館の工夫って? ~名古屋港水族館~ ・水族館職員からのお話 ・館内見学[北館→イルカショー→南館] ・ふりかえり	32名(応募総数169名の内、抽選)

③福祉教育推進事業・福祉教育への支援

(ア) 地域福祉教育推進(講師派遣)事業[17校]

子どもたちが地域の中で生活全般にかかわる「福祉」について学び、自分にできることを考えるきっかけづくりとなる福祉教育を推進するため、日常的に子どもたちと関わり、福祉教育を実践されている学校と協議をしながら、子どもたちにあった学習プログラムを作成し、それに講師の紹介や調整、依頼やその経費については市社協が担う事業として実施した。

学校名および学年	◎主な学習内容、★派遣講師のイメージ
①三重北小学校4年	◎障害のある講師2名と交流することで、同じ障害でもその程度や考え方、ライフスタイルに違いがあることを知り、子どもたちの持っている障害観を変えるきっかけとする。 ★市内在住の視覚障害者2名
②保々小学校3年	◎障害の有無に関わらず自分らしく前向きに生きる講師との交流とおして、子どもたちの持っている障害観を変えるきっかけとする。 ★車椅子スポーツを楽しんでいる車いす利用者

③大矢知興譲小学校4年 ④八郷小学校4年 ⑤大谷台小学校4年 ⑥羽津北小学校4年	◎国語教材を導入とし、視覚障害のある講師と交流することで、障害のある生活について学び、自分らしく生きることの素晴らしさを知る。 ★市内在住で一人暮らしをして生活している視覚障害者
⑦下野小学校6年	◎マダガスカル遊びを体験することで『仲間と共に活動する楽しみ』を知り、その体験からお互い助け合うことの大切さについて考えるきっかけとする。 ★独立行政法人国際協力機構 JICA 中部
⑧高花平小学校4年	◎国語教材を導入とし、視覚障害のある講師と楽しく交流をすることで、障害に対するマイナスイメージをなくす。 ★市内在住で今が一番楽しいと話す中途失明の視覚障害者
⑨海蔵小学校4年	◎同じ地域に暮らす障害のある講師と交流することで、自然に障害のある生活について学ぶきっかけとする。 ★地区在住の視覚障害者
⑩楠小学校4年	◎国語教材を導入とし、視覚障害のある講師と楽しく交流することで、障害のある人ではなく、その人自身について理解する大切さを学ぶ。 ★市内在住で今が一番楽しいと話す中途失明の視覚障害者
⑪桜台小学校3年 ⑫塩浜小学校4年	◎体験学習をきっかけに、それぞれ異なる障害のある講師2名と交流を持つことで、障害の有無に関わらず前向きに生きる大切さを学ぶ。 ★市内在住の視覚障害者 ★車椅子スポーツを楽しんでいる車いす利用者
⑬大池中学校1年	◎講師との交流をとおして車いすでの生活を知り、「誰もが暮らしやすいまち」に必要なことは何かを理解する。 ★車いす利用者2名
⑭西笹川中学校2年	◎一人暮らしをしている車いす利用者の講師とその支援者の話を伺うことで、自立についての考え方を見直す機会とする。 ★市内在住で一人暮らしをする車いす利用者とその支援者
⑮三滝中学校1年	◎人権教材「わたし、かがやく」に登場する講師から直接話を伺うことで、障害に対する理解を深め、「誰もがくらしやすいまち」とは何か考える。 ★人権教材に登場する車いす利用者
⑯保々中学校1年	◎人権学習をきっかけに、車いす利用者の講師の話を伺うことで、自立についての考え方や障害観を見直す機会とする。 ★市内在住で一人暮らしをする車いす利用者
⑰メリノール女子学院	◎スポーツを通じて講師と交流することで車いすでの生活を知り、本当に必要な配慮とは何かを理解する。 ★車いすテニスプレーヤーとして活躍する車いす利用者

(イ) 福祉教育への支援〔5校〕

地域福祉教育推進事業実施校以外の小学校・中学校・高等学校で、福祉教育に取り組んでいる学校の相談に応じ、取り組み内容についての情報提供や福祉用具の貸出及び講師の紹介、職員派遣を行った。

校種	学校数	学校・学年	学 習 [支 援] 内 容
小学校	4校	内部東・6年	施設でのボランティア活動紹介
		常磐・6年	プログラム相談、講師紹介
		河原田・3年	プログラム相談、講師紹介
		八郷・6年	施設でのボランティア活動紹介
高校	1校	四郷・1年	プログラム相談、講師紹介

④教職員福祉教育講座の開催

福祉教育を推進される教員を対象に、福祉教育をすすめる上でのヒントや参考になる講師を紹介する機会をつくり、教員との連携体制を図った。

(ア) 夏季教職員福祉教育研修会

小中学校の教職員を対象に、市教育支援課教職員研修講座の共催講座として開催。

開催日	開催場所	開催内容	参加数
8月16日 (木)	四日市市 総合会館	講演「福祉教育がめざすもの～学校教育・地域教育・家庭教育が手をつなぐ大切さ～」 講師：大阪教育大学教育学部教養学科 准教授 新崎 国広 氏 パラリンピック競技体験 福祉教育モデルプログラム紹介等	10名 小学校教員6名 中学校教員4名

(イ) 教職員向け福祉情報紙の発行

小学校4年生の教諭向けに教科書（国語の単元）を題材にしながら福祉学習をするプログラムを紹介することを目的に、情報紙を作成し、市内の小学校4年生を担当教諭に配布した。

⑤ボランティア交流会の開催

ボランティアセンター登録団体や個人ボランティアが一堂に会することによっていろいろな情報交換や交流を行い、団体同士・団体と個人ボランティア・団体や個人とボランティアセンターのつながりを強化することを目的に開催した。

開催日	開催場所	開催内容	参加者数
10月14日 (日)	四日市市 文化会館 第3ホール	(テーマ)『出会おう！語ろう！つながろう！』 (内容)①団体&個人のアピールをしよう！ ②ゲーム「デートをしよう！」 ③情報交換&交流会 ④みんなで歌おう ⑤ボランティアコンテスト	17団体 28名 個人ボラン ティア 12名

⑥ボランティアリーダー研修会の開催

ボランティア活動が多様化している状況下、ボランティア団体のリーダーを対象に、自分たちの活動の効果や意義を可視化し、いかに発信していくことがこれからの活動に必要なかを考えていくことを目的に、ワークショップを開催した。

開催日	開催場所	開催内容	参加者数
3月10日 (日)	四日市市 文化会館 第3ホール	(テーマ)『伝えられますか？あなたの活動の効果・意義！』 (講師) 村上徹也氏 市民社会コンサルタント、 日本福祉大学社会福祉学部 教授 (内容) ①アイスブレイク ②可視化ワーク(ツールに従いながらの可視化の確認作業) ③可視化して確認した価値を伝えるためのワーク ・活動PRポスターの作成及び発表	26団体 35名

⑦専門ゼミナール及び出前講座の開催

自主防災、民生委員児童委員、地域マネージャーなどを対象に、災害ボランティアセンターの役割や地域として準備しておかなければいけない課題などを知らせていただく機会として専門ゼミナールを開催した。講座受講者には災害ボランティアセンターを設置推進していく際に協力いただける協力者として登録いただき、継続して研修会に参画していただく。また、出前講座として地区を単位に災害ボランティアセンターを啓発する機会を作るとともに災害ボランティ

アセンターを体験利用できるプログラムを提案し、地域の自主防災組織等に災害ボランティアについて考えていただく機会を提供した。

(専門ゼミナール)

回	月 日	勉強会の内容	参加人数
1	7月13日 (金)	講演:災害ボランティアセンターの役割と地域の関係について 講師:新潟県柏崎市社会福祉協議会 山崎博之 氏	41人
2	8月10日 (金)	講義:四日市市の災害ボランティアセンターのあり方について 体験:災害ボランティアセンター疑似体験プログラム	41人
3	1月30日 (水)	台風17号被災者へのボランティア派遣対応報告会	36人

(出前講座)

回	月 日	講座の内容	参加人数
1	6月27日(水)	(出前講座)三重地区自主防災総会	約50人
2	8月26日(日)	(啓発コーナーの設置)市民総ぐるみ防災訓練	—
3	9月15日(土)	(出前講座)四日市大学公開講座	約60人
4	10月13日(土)	(出前講座)四日市大学公開講座	約60人
5	12月2日(日)	(災害ボランティアセンター体験訓練)内部地区防災訓練	—
6	12月11日(火)	(出前講座・災害ボランティアセンター体験訓練) 共同地区社会福祉協議会	約30人
7	1月12日(土)	(出前講座)水沢小学校福祉講座	約50人
8	2月16日(土)	(出前講座・災害ボランティアセンター体験訓練) 橋北地区自主防災組織研修会	約60人
9	3月21日(木)	(出前講座)三重地区防災リーダー研修会	約60人

⑧学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携強化

現在、つながりのある学校とのさらなる顔のみえる関係づくりを目的に、イベントや活動等を通して連携強化に努めた。

学 校 名	活 動 内 容
四日市看護医療大学	①四日市大学・四日市看護医療大学合同文化祭 (よんよん祭り)へのボラセンとの合同出展 ②四日市ボランティアフェスティバルの運営委員として運営委員会への参画
四日市大学	①四日市大学・四日市看護医療大学合同文化祭 (よんよん祭り)へのボラセンとの合同出展 ②四日市ボランティアフェスティバルの運営委員として運営委員会への参画
ユマニテク医療福祉大学校	①はじめてのボランティア説明会の出前講座の開催 ②託児ボランティア活動への参加

⑨四日市ボランティアフェスティバルの開催

ボランティア活動の啓発およびボランティア人口の拡大を目的に、昨年度の団体によるブース出展や活動発表という内容から、みんなで取り組んでいく内容に変更して、ボランティアフェスティバルを開催した。(運営委員会形式で開催)

開催日	開催場所	ボランティア数	開催内容
3月3日 (日)	市民公園	70名	①ボランティア体験プログラム 有機野菜でつなげる輪！「四日市のおいしい夏野菜と一緒に食べようプロジェクト」 ②ボランティアがつくる空き缶アート 「I♡四日市」(空き缶回収数：約4,000個) ③ボランティアメッセージコーナー ④ボランティア相談コーナー

〔運営委員会の開催〕

構成委員	開催回数	活動内容
ボラ団体（6団体：6名） 学校関係（1校：1名） 個人ボランティア（3名）	運営委員会 〔4回〕	原則、月1回定例会開催。 四日市ボランティアフェスティバルの 内容企画、当日の運営などへの協力

⑩子育てボランティアサポート事業の実施

ボランティアセンターに寄せられるボランティアニーズのうち、子どもや障害のある子どもたちへのサポート依頼件数が増加している。今後、ますます増加するこれらのニーズに対して、対応していただくボランティアへの支援や育成を図ることを目的に、支援や育成に関する新たなしくみづくりとして、①依頼に関する決まりごとや注意事項の明文化・ボランティア依頼書のフォーマット作成、②ボランティア活動者への募集情報を従来の方法に加えてメールでの一斉配信、③ボランティア活動者のスキルアップにつながる講座の開催を行った。

(子どもと障害児・者のサポート講座)

開催日	開催場所	開催内容	出席者
2月17日 (日)	四日市市 総合会館	①ボランティアの必要性について NPO 四日市・子ども発達支援センター 佐藤氏 三重県手話通訳問題研究会 今村氏 ②乳幼児との関わり方について 発達総合支援室 支援アドバイザー 小林氏 ③障害のある子どもとの関わり方について 西日野にじ学園 地域支援部 上田氏	22名

(3) 活動支援

①ボランティアコーディネート

ボランティアを必要としている人とボランティア活動を希望している人や活動中の人を実際の活動につなげることを目的に行った。

コーディネート実績（平成24年度累計）		
依頼件数	245件	
派遣件数	229件	
派遣人数	509名	
派遣団体数	44団体	
派遣中止	主催者理由	9件
	V活動者理由	3件

	希望者なし	4件
--	-------	----

②外出援助サービス保険料助成事業の実施

外出困難な要援護者のニーズ対応と外出機会の拡大を目的として、医療機関などへの外出援助サービスを行っているボランティア団体等に対して、送迎サービス補償・ボランティア活動保険の各保険料の半額助成を行った。

- 〔助成団体〕
1. 桜ボランティア協会〔桜地区〕
 2. ミニデイサービス「ともだちの和」〔桜地区〕
 3. 山上いきいきサロン〔桜地区〕
 4. おたまじゃくしの会〔八郷地区〕

③ボランティア活動保険の加入促進

ボランティア活動中の事故に備えて、ボランティア活動保険の掛金の一部補助（一律一人 100円）を行い、加入促進を図った。

ボランティア活動保険加入者 4, 818名（平成25年3月31日現在）

④全国ボランティアフェスティバルみえの参加支援

ボランティア活動への関心が高まっている中、全国規模のボランティア大会への参加を通して団体の活動の活性化を図ることを目的として、四日市市ボランティアセンター登録団体や個人ボランティアを対象に参加を募り、フェスティバルに参加する費用の一部（交通費・参加登録費）を助成した。

開催日	開催会場	参加団体	開催内容
9月29日(土) ～30日(日)	(三重県) 三重県総合 文化センター	①団体（15団体33名） ②個人ボランティア（3名） ③学生ボランティア（1名）	・テーマトーク ・テーマアクト ・分科会 ・フィールドワーク ・ふれあい広場

⑤台風17号における四日市市内災害ボランティアコーディネート

平成24年9月30日に発生した台風17号において、四日市市内において床上浸水84世帯、床下浸水386世帯が被災した。小規模の被害であったため災害ボランティアセンターは設置せず、被災された世帯への支援窓口として災害ボランティア相談窓口を設置した。自治会や関係機関と連絡をとり、被災家庭にビラを配布しニーズを把握するとともに、ボランティア支援が必要な世帯に浸水した家具の廃棄や清掃活動を目的に災害ボランティアを派遣した。

災害ボランティア窓口設置期間 10月2日～10日

被災家庭 20件

派遣ボランティア数 60名

(4) ボランティアセンター基盤整備事業の実施

①四日市市ボランティアセンター運営委員会立ち上げ準備事業の実施

平成25年度の運営委員会立ち上げに向けて、学識経験者から助言を受けながら、ボランティアセンター運営委員会立ち上げ準備を行った。

助言日	会場	学識経験者	助言内容
-----	----	-------	------

①12月19日 ②1月29日 ③3月22日	龍谷大学 瀬田キャンパス	龍谷大学 地域福祉学部 教授 筒井のり子 氏	①運営指針作成の経緯 ②ボランティアを取り巻く背景 ③市社協ボラセンのミッション ④市社協ボラセンの役割 ⑤市社協ボラセン事業の重点ポイント ⑥市社協ボラセンの進め方 ⑦市社協ボラセン運営指針イメージ図
-----------------------------	-----------------	------------------------------	---

【福祉ボランティアのまちづくり事業 まとめ】

平成25年3月31日現在のボランティアセンターへの登録団体数は、208団体8,499名、登録個人ボランティアは204名であった。

ボランティア活動に関心のある人にボランティア活動を知ってもらう機会として、「はじめてのボランティア説明会」を月3回〔平日・夜間・休日〕開講し、年間を通じて162名が参加。約半数が実際の活動につながった。しかし、ボランティア活動の体験のみを希望する人、具体的な活動のイメージができない人、説明会だけで活動につながらなかった参加者への対応として、ボランティア団体や福祉施設などと協働しながら、ボランティア体験プログラムの開発をしていく必要がある。

四日市ボランティアフェスティバルは4年目を迎え、これまでの団体の活動発表から、ボランティアのみなさんでひとつのことに取り組んでいく内容に変更した。そのことにより、今まで参画いただけなかったボランティア団体や、民生委員児童委員、福祉施設（あさけワークス・たんぽぽ・清和会）などつながりをもつことができたことは成果であった。

ボランティアセンターが取り組むべき内容や今後の方向性などを明確にしていくことを目的とした、四日市市ボランティアセンター運営委員会立ち上げに向けて準備を行った。

3. ふれあいのまちづくり事業

地区社会福祉協議会（地区社協）への具体的な支援として地域福祉活動メニュー事業での地域住民の意識高揚、ボランティアの発掘などをとおして、住民自らの福祉活動が展開されるよう支援した。また、福祉協力員等が行う、助け合い・見守り・ふれあいなどの活動が円滑に推進されるよう支援の見直しに着手した。

さらに、各地区民生委員児童委員協議会へ参画し、地域の福祉課題の解決に向けた活動を支援した。

総合相談事業では、総合相談室における相談活動を重視し、「三四地域権利擁護センター」をはじめとする関係機関との連携を密にしながら問題解決や福祉ニーズの把握に努めた。

（1）地区社会福祉協議会支援

地域において、地域福祉活動を推進していく基盤となる地区社協との連携強化に努めた。

①地区社協への運営費等の助成

(ア) 地区社協組織活動補助金…1地区 40,000円。支部（校区）社協を組織化している地区については1支部（校区）社協につき8,000円を加算。

(イ) 地区社協事業費補助金…地区の世帯数による

世帯数	補助金単価(円)
4,000世帯未満	50,000
4,000世帯以上5,000世帯未満	75,000
5,000世帯以上6,000世帯未満	100,000
6,000世帯以上7,000世帯未満	125,000
7,000世帯以上8,000世帯未満	150,000
8,000世帯以上9,000世帯未満	175,000
9,000世帯以上	200,000

(ウ) 地域福祉活動メニュー事業補助金…実績方式

①学習・啓発事業（上限4万円）

- ②ふれあいいいききサロン事業（上限20万円）
 - ・新規立ち上げ備品購入費（上限1団体3万円）
 - ③交流事業(上限4万円)
- (エ) 共同募金交付金…四日市市共同募金会が定めた目標額の21%と超過額の90%
(実績が目標額に達しない場合は、実績額の21%)

②地区社協指導者研修会等の実施

(ア) 地区社協連絡協議会 全体会議

平成24年6月18日（月） 市総合会館 8階視聴覚室

- 内容
1. 会長・副会長の選任について
 2. 市社協評議員の選出について
 3. 指導者研修会の開催について
 4. 市社協 補助金について
 5. 情報提供・出前講座の案内
 - 「体験お達人クラブ」について
 - 「ヘルスリーダーの募集案内」について
 - 「四社協福祉ゼミナール」について
 - 「成年後見制度 出前講座」について
 - 「ボランティアセンター」について
 - 「初めてのボランティア説明会」について
 6. 四日市市における東日本大震災等被災地支援関係団体情報交換会「チーム四日市」について

(イ) 地区社協リーダー研修会／補助金説明会

平成25年3月4日（月） 市総合会館 8階視聴覚室

- 内容
1. 講演 「地域を紡ぐ～ふつうの暮らしと地域コミュニティ～」
講師 NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター
理事長 池田昌弘 氏
 2. 平成25年度補助金について
 - 介護・高齢福祉課より
 - 四日市市社会福祉協議会より
 - ・地区社協補助金について
 - ・ふれあいいいききサロンについて
 - ・講演会、講師依頼（保健所健康総務課）についてのご案内
 3. 平成25年度役員について

対象 地区社会福祉協議会会長及び役員、地区市民センター担当職員、地域マネージャー等

③福祉協力員等活動費補助事業の実施

地域福祉活動の推進者である福祉協力員等の活動のより一層の促進を図るため、運営費20,000円、活動費として福祉協力員等1名につき年間3,000円（上限80,000円）を補助し、活動を支援した。

・福祉委員（福祉協力員）等の役割

1. 地域住民への福祉意識の啓発
2. 福祉ニーズの把握及び連絡
3. 地域住民への福祉情報の提供
4. 小地域ネットワークの形成
5. 地区社協活動への協力
6. その他目的達成のために必要な活動

・実施地区(17地区)

共同、中央、港、橋北、海蔵、羽津、富田、下野、三重、県、桜、川島、神前、日永、塩浜、内部、大矢知

④地域福祉活動メニュー事業の実施

平成8年度から地区社協に対する具体的な支援として「地域福祉活動メニュー事業」を開始した。平成10年度からは、対象を小学校区に組織化されている地区社協に拡大し、平成12年度からは、高齢者などの介護予防や地域での交流・出会い、憩いの場としての「ふれあいいいききサロン」活動を進めていくための運営費や、新規に活動を立ち上げる資金を支援するメニューを加えた。また各地区社協の福祉活動状況や地域特性を踏まえて、それぞれの地域課題を明らかにし、地区社協の取り組みに際し、事業の企画段階から市社協職員が参画して、支援を行ってきた。

(メニュー内容)

(ア) 学習・啓発事業

住民に対して、福祉に関する情報を提供することにより、福祉意識の高揚と学習機会の提供を行う事業

(イ) ふれあいいいききサロン事業

地域の高齢者・障害者・児童が気軽に集える憩いの場づくりを促す事業

(ウ) 交流事業

地域で暮らすみなさんの交流やつながりの機会を作る事業

【地域福祉活動メニュー事業 実施講座】

●事業数 20地区(支部を含む) 57メニュー

地区名	区分	事業名	内容・演題	参加者
共同	学習・啓発事業	視察研修	視察研修	40名
		福祉勉強会	災害ボランティアセンターを一緒に体験しませんか?	24名
		福祉講演会	老年医学の立場から～高齢者の健康について～	65名
	交流事業	ひとり暮らしの集い	会食・茶話会、ささ菊会による舞踊と手品	100名
中央	交流事業	ひとり暮らしの集い	リズムメイトによる歌と演奏	62名
		三世代交流行事 中央・同和もちつき大会	世代間交流	250名
港	交流事業	ひとり暮らしのつどい	ハワイアンバンドと大正琴のコラボレーション昼食会	80名
		クリスマスおたのしみ会	会食・茶話会	70名
浜田	交流事業	一人暮らし高齢者の集い	会食・茶話会	100名
		世代間交流事業 ながしそうめん と金魚すくい	世代間交流	200名
同和	交流事業	ひとり暮らしの集い	会食・茶話会、リズムメイトの皆さんによる歌と演奏、港在宅介護センター彦惣さんのお話	45名
		三世代交流行事 中央・同和もちつき大会	世代間交流	250名

海蔵	交流事業	海蔵小学校2年生との交流会	世代間交流	150名
		福祉の家：お楽しみ会（文化祭）	会食・茶話会、懇談会	82名
		福祉の家：男の料理教室	料理を通して交流を深める	14名
羽津	交流事業	ひとり暮らしの集い	懇談会	138名
富洲原	学習・啓発事業	福祉講演会	地域にある課題にどう向き合うか！！一緒に考えてみましょう！	41名
	交流事業	第30回富洲原地区ふれあいグランドゴルフ大会（春）	グランドゴルフを通じた世代間交流	120名
		ふるさと探検隊 2012 富洲原地区ふれあいウォークラリー大会	ウォークラリーを通じた世代間交流	200名
		第31回富洲原地区ふれあいグランドゴルフ大会（秋）	グランドゴルフを通じた世代間交流	95名
下野	学習・啓発事業	福祉講演会	元気になる！「シルバー世代を生き抜く」講座 シルバー世代へのお勧め食生活	49名
		福祉講演会	元気になる！「シルバー世代を生き抜く」講座 第2回「オンリーワンの老後」	86名
		福祉講演会	「高齢者の便通異常」	104名
県	交流事業	ふれあい文化祭	世代間交流	300名
		県地区綱引き選手権大会	世代間交流	300名
	学習・啓発事業	文化講演会	県地区ゆかりの文学者たちと“まちづくり”	20名
桜	学習・啓発事業	史跡めぐり	地域の歴史を知ることにより、郷土への愛着を深め、住民相互のつながりをより強くする。	81名
		バードウォッチング	「身近な自然とのふれあいを通して郷土愛を育む」	43名
		防災セミナー	「障がい児・者と地域、家庭の防災を考える」～本当に大震災が来たとき、私たちは・・・～	44名
		健康講座	「人にとっての心の健康について」～特に日本人と鬱について考えてみる～	70名
	交流事業	健康講座「リフレッシュ健康体操」	高齢者の健康づくり、介護予防の活動	51名
		さくらふれあいまつり	福祉施設との交流会、世代間交流	121名
川島	交流事業	川島町北部第一自治会親睦会	世代間交流、グラウンドゴルフと昼食会	78名
		親睦もちつき大会	福祉施設との交流会、1人暮らし高齢者の交流、地区障害者の交流	110名
神前	学習・啓発事業	子育て広場	「子育て広場 絵本読み聞かせ」	11名

常 磐	学習・啓発事業	手話についての講演	私の幼い頃のこと 講師：伊久間薫、伊久間みき江	10名
		ろう者の手話による講演会	生い立ちと現在 講師：本間豊子	12名
	交流事業	聴覚障害者との交流事業	地区在住のろう者との共同作業 (おもちつき)	17名
四 郷 (旧四郷)	交流事業	共栄作業所との交流会	福祉施設との交流	90名
四 郷 (高花平)	交流事業	保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	25名
		幼稚園児と高齢者の集いの会	世代間交流、	40名
		保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	25名
		幼稚園児と高齢者の焼きいも大会	世代間交流	50名
		保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	20名
		幼稚園児・保育園児・小学1年生 と高齢者の合同ふれあい音楽会	世代間交流	150名
日 永	学習・啓発事業	日永うちわを作ろう	環境に配慮したエコな日永地区 の伝統文化	43名
		ひとり暮らし高齢者健康教室	座って出来る運動のススメ	133名
		福祉施設見学	施設見学並質疑応答	28名
	交流事業	ひとり暮らし高齢者のつどい	会食・茶話会	252名
塩 浜	交流事業	第1回塩浜地区社会福祉協議会長 杯GG大会	世代間交流	105名
		ナイターGG大会	世代間交流	60名
		イキイキふれあいGG大会	世代間交流	70名
河原田	学習・啓発事業	七宝焼き講習会	七宝焼きの歴史にふれ、思い思い の作品を作成する。	20名
	交流事業	障害者ふれあいの集い	日本昭和村での交流会	19名
		和洋菓子づくり	世代間交流	28名
		梅まつりウォーキング大会	世代間交流	55名
楠	交流事業	ふれあい農園	世代間交流	20名

合計 4,866名

●ふれあいいきいきサロン開催実績

実施地区 32地区(支部を含む) 233サロン

地区名	回数	参加者数	サロン名
共 同	126回	1827名	いろは会、諏訪栄いきいきサロン、ふれあいいきいきサロン、サロン時計台、中部スマイルきょうしつ
中 央	9回	222名	中央地区ふれあいサロン、新町おしゃべりサロン

港	15回	223名	歩こう会、港地区いきいきサロン
同和	65回	824名	あんずの会、同和地区いきいきサロン
橋北	12回	1284名	にこにこサロン日曜給食サービス
海蔵	222回	2261名	クロリティ・グランドゴルフ、茶のみ友の会、折紙愛好会、パソコン教室、踊り愛好会、お達者クラブ、カラオケ愛好会、書道サークル、茶道サークル、グランドゴルフ、音楽療法の会
羽津	12回	171名	ふれあいサロン「仲良し会」
富田	408回	7736名	ボランティア委員会、富田宅老所 ひだまり、いこいのサロン、すみれサロン、うたおう会、なかよしクラブ、パソコン教室、富田グラウンド愛好会、東富田グラウンドクラブ
大矢知	332回	4261名	松寺寿会、十志町ものづくりの会、ゲートボール愛好者の集い、松寺ふれあいデー、蒔田グラウンドゴルフ同好会、蒔田なかよしサロン、なごみクラブ、知りたい輪、松寺ふれあい折紙クラブ
八郷	245回	3999名	あじさい広場、蒨のとう、平津あゆみの会、きらく、すくすく Kid's、さるびあ会、ゲー・チョコキ・パー、虹の会
八郷(西)	534回	6860名	八郷西子ども文庫、ふれあい映画会、すみれ会、ふれあいランチタイム、たんぼぼの会、八郷西もみじクラブ、アスパラ、おたまじゃくしの会、暁風会、ひまわり会、八郷西陶芸クラブ、トマリ会、陸会
下野	265回	3174名	下野・障害(児)あゆみの会「ふれあい」、山城町 詩吟クラブ、ワイワイクラブ勉強会、ボランティアグループ「梨の実会」、八千代台「絵手紙サークル」、コーラス「和み」、あさけが丘1丁目卓球、あさけが丘水曜午後卓球クラブ、グランマ
三重	12回	138名	金曜クラブ 料理教室
三重(中央)	353回	4585名	川向グラウンドゴルフクラブ、山之平グラウンドゴルフ同好会、生桑町グラウンドゴルフクラブ、東坂部町グラウンドゴルフ愛好会、寺小屋
三重(西)	308回	1240名	太九会、三重西ふれあいサロン スマイル、美里パソコンクラブ、結、三重西社協世代間交流事業
三重(北)	655回	9211名	介護予防の会「さえずり会」、坂部が丘五丁目フリークラブ、山之一色町グラウンドゴルフ 愛好会、大沢台さつき会
大谷台	545回	5018名	ふれあいいきいきサロン小杉新町、いきいきサロン福寿会、みゆきヶ丘一丁目いきいきサロン、いきいきサロン木曜会 みゆき2、いきいきサロン大谷台、大谷台2丁目いきいきサロン長寿会、南垂坂長シニアクラブ(南垂会)、いきいきサロン 小杉1、いきいきサロン大空、いきいきサロンお達者倶楽部

県	853回	11590名	赤水町ふれあいいいききサロン、上海老町五月会第1（大正琴）、上海老町いきいきサロン第1（大正琴）、いきいきサロン寿会、平尾町いきいきサロン第1（習字）、平尾町ふれあいいいききサロンふるさと広場、ふれあいクラブ、ふじの会、栄いきいきサロン第1（ゲートボール）、栄いきいきサロン第2（グランドゴルフ）、栄いきいきサロン第3（手芸）、ハイツにこにこ会、スイトピー（大正琴）、あがたいきいきサロン（ゲートボール）、大沢いきいきサロンお達者倶楽部、いきいき体操仲良会、平尾町いきいきサロン第2（グラウンドゴルフ）、グラウンドゴルフ 愛好会、グランドゴルフ仲良し会、カラオケ仲良会、赤水町グランドゴルフ仲良会
桜	163回	3560名	憩いの家、駅前憩いの家、山上いきいきサロン、桜花台ふれあいサロン、ボランティアグループわかば会、ミニデイサービス ともだちの和、一色お達者クラブ、桜南ほかほかくらぶ、のびっこ
川島	285回	2345名	なんぶ塾、西部ふれあい会、川島映画劇場、川島福祉ふれあいいいききサロン、ゆーらくサロン、けやき台 カラオケ会、けやき台 グランドゴルフ、三滝台卓球クラブ木曜会、三滝台サロン「ふれあい」
神前	300回	4248名	菅原町 ふれあい広場、寺方町一区 ふれあい広場、高角町 ふれあい広場、曾井町 ふれあい広場・笑話会、尾平町 ふれあい広場、上名ヶ丘 ふれあい広場、美里ヶ丘 ふれあい広場
常磐	226回	2403名	きらめきサロン、久保田ふれあいの会、西松本町 ふれあいサロン、青葉町生き生きサロン、いぐらふれあいの会、いきいきサロンほほえみの会、まつもとイキイキクラブ、青春映画サロン 西伊倉、
四郷 (旧四郷)	157回	2846名	四郷ふれあいいいききサロン やんばいやね、いきいきサロン 悠友室山、いきいきサロン「きずな」
四郷 (笹川)	403回	5419名	ふれあいサロン たまりば、ふれあいサロン わかさ、笹川うたの会、桜の会、ごらくクラブ、おしゃべりサロン、18なでしこ会、いきいきサロン微笑
四郷 (高花平)	274回	2682名	小林町 ほほえみ会、絵手紙教室、ミニ福祉教室、生活リハビリ お達者教室、3中いこいっこ、5中いこいっこ、昭和サロン
小山田	235回	2983名	はればれクラブ、鹿間町元気になる会、和無田町撫子会、子育てひろば、子育てサロンふらっと、山田町自治会、小山町グランドゴルフ健康会
水沢	284回	3694名	茶の実の会らふらっとら、エンジョイエアロ、葉穂の会 水沢、起勢の会、青葉会、笑顔の会、そば打ち同好会、水沢 クプナ・フラ、水沢茶どころ吟詠会、茶っ都水沢、水沢 子育てサロン
日永	480回	13969名	青空サロン、スカイハイツ日永 住民親睦会、ミニデイサービス ふれあい会、えがお、元気火曜日会、猿法師ラジオ体操同好会、泊山南部たけクラブ、サロン きらら、アロハサークル、追分町つくし会、小柳町カラオケ同好会
塩浜	315回	4142名	川合町 なかよし会A、川合町 なかよし会B、七つ屋町自治会 ふれあい広場 福寿草A、七つ屋町自治会 ふれあい広場 福寿草B、いきいき町づくり活動、ひだまり広場、大井の川町 カラオケ同好会、海山道町 ふれあいサロン、中里町 若竹会、竹の子会A、竹の子会B、イキイキサロン、小浜友愛会、中里町 孔雀会

内 部	146 回	2660 名	東原町「いきいきサロン」、がらがらどんの会 森力山、そらまめの会、ぽっかぽか笑話会、あったか交流サロン、サロン de 竈、北小松ふれあいいいきいきサロン 高齢者及びチビっ子教室
河原田	46 回	1106 名	すくすくサロン、いきいきサロン あすなる会、いきいきサロン オレンジ、いきいきサロン 貝塚町、大治田 ふれあいサロン
楠	74 回	1445 名	栄町街角くらぶ、錦町・昭和町街角くらぶ、北本町街角くらぶ、南本町街角くらぶ、旭町街角くらぶ、幸町二区街角くらぶ、開栄町お達者クラブ、吉崎ふれあい街角くらぶ

(2) 地域福祉活動支援

①福祉コミュニティの推進

地区民生委員児童委員協議会への参画等をとおして、各地域の社会資源や福祉課題の整理を行った。

②先駆的事業の開発

- ・四日市市地域後見サポート事業の実施

市や福祉・司法関係機関との連携を図り、市民からの成年後見制度に関する相談や成年後見制度を必要とする人々の支援を行う事業を実施した。

内 容	件 数
新規相談件数	245件
支援実人数	72件 (うち終了43件)
受任支援	7件 (後見：6件 (類型変更2件)、終了：1件)

- ・なるほど出前講座の開催

福祉に関する情報や制度についてわかりやすく情報発信するしくみとして出前講座を開始した。

実施日	対象者・内容
5月23日(水)	小山田学校 後見出前講座
7月10日(火)	共栄作業所保護者会 後見出前講座
11月9日(金)	八郷地区シニアカレッジ 後見出前講座
2月16日(土)	あした葉の会 後見出前講座
3月11日(月)	リウマチ友の会 後見出前講座
3月15日(金)	たんぽぽ職員研修 後見出前講座

(3) 四日市市福祉教育大学の開講

①四社協福祉ゼミナールの開催

福祉の考え方の基本視点を見つめなおす機会・福祉の最新情報や専門知識を学ぶ場として開講し、ふだんのくらしのしあわせについて考える市民(福市民)の養成を行った。今年度は福祉協力員の研修の機会も兼ね、興味のある講座のみの参加も可能な形で実施。全体で82名の参加があり、福市民として67名が登録した。

	内容	参加数
第1回 9/27(木)	開講式 「福祉活動による学び」 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏	65名
第2回 10/18(木)	「ボランティアっていったい何？」 華頂短期大学 名賀 亨 氏	55名
第3回 11/22(木)	「これからのボランティア市民活動に期待されること」 桃山学院大学ボランティア活動支援室アドバイザー 脇坂 博史 氏	54名

第4回 12/20 (木)	「ゼミナールでの学びを活動へつなげよう～実践発表」 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏	53名
第5回 1/17 (木)	「福祉のまちづくりをめざして私たちが今できること」 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏	43名
第6回 2/15 (金)	福市民の集い	42名

②地域福祉ゼミナールの開催

福祉協力員等が組織化されている17地区全てで座談会を開催した。

③専門ゼミナールの開催（権利擁護）

	内 容	参加者
第1日目 3/22 (金)	オリエンテーション 講義1：認知症の支援と理解 講師：市社協 中地域包括支援センター 草深一夫 講義2：地域福祉権利擁護事業について 講師：四日市市社会福祉協議会 講義3：成年後見制度の基礎知識 講師：リベラ法律相談所 米田 義弘 氏	39名
第2日目 3/29 (金)	講義4：知的障害の理解と支援 講師：市川社会福祉士事務所 市川 知律 氏 講義5：精神障害の理解と支援 講師：県立総合医療センター 後藤 敦子 氏 講義6：相続に関する基礎知識 講師：橋本行政書士事務所 橋本 俊雄 氏 講義7：これからの権利擁護のあり方について 講師：四日市大学 東村 篤 氏	35名

(4) 福祉総合相談事業の実施

関係機関との連携を図り相談事業の充実に努めた。

- ・開設場所…四日市市総合会館 2階総合相談室
- ・開設日 …月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分(祝祭日を除く)
- ・相談件数…161件

相談方法	電 話	来 所
件 数	140	21

相談事項	暮らし・住まい	家 族	健康・医療	人権・法律	教育・福祉	その他
件 数	31	3	20	3	92	20

※相談事項は重複

【ふれあいのまちづくり事業 まとめ】

地区社協を具体的に支援する地域福祉活動メニュー事業として、地域で気軽に集える場所づくりとしたふれあいいいききサロン活動は、対象者も高齢者に限定せず、子育て中の母親や、障害のある方が参加できるような多機能型の活動や児童と高齢者の交流活動が増加している。活動実績も32地区(支部)で233グループが8,359回、参加延べ人数は118,126名となり、これらの小地域でのふれあいいいききサロン活動は、昨年度に比べて、36グループ・2,440回・31,779人増加している。

そして、福祉教育大学では、単に知識として福祉を学ぶだけではなく、学ぶことを通して、受講者

の主体性を育み、地域福祉の主体的実践者である「福市民」を育成することを目的として四社協福祉ゼミナールを開講して82名が受講し、福市民として67名登録がした。また、具体的な活動に参画できる市民の養成として専門ゼミナールを開講して39名が修了し、14名が地域福祉権利擁護事業の生活支援員として登録した。

さらに、福祉協力員活動を実施している17地区で地域福祉ゼミナール（座談会）等を開催して、地域の福祉課題の把握と解決に向けた協議を開始した。

今後も、地域福祉活動をより一層推進するため、実施地区への支援はもちろん、職員の参画や情報提供に努めるとともに、関係機関との連携を強化していく。

また、昨年度に引き続き各地区民生委員児童委員協議会へ参画し、民生委員児童委員が取り組む高齢者、障害者（児）への支援、「地域子育てネット0～6会議」をはじめとする子育て支援活動等で明らかになった各地域の社会資源の把握や福祉課題の解決に向けた活動に対する支援を強化した。

引き続き、各地域の福祉課題に向けて、地区社協、民生委員児童委員、在宅介護支援センター、ボランティアなどが行なう福祉活動のネットワーク化に向けての支援を拡充していく。

4. 福祉事業

市民のあらゆる福祉ニーズに対応するため、介護保険事業、障害者自立支援事業、地域福祉権利擁護事業、福祉施設管理運営事業等を実施し、利用者本位の福祉サービス提供に努めた。

(1) 介護保険関連事業の実施

① 居宅介護サービス事業（介護予防事業含む）の実施

・訪問介護事業の実施

職員体制としては、常勤職員が核となり、職員間の連携を強化し、効率的で利用者のニーズに即した質の高いサービスの提供に努めた。

また、介護予防訪問介護については、利用者の介護予防・自立支援を目標にサービスを提供した。

●介護保険訪問介護サービス延利用者数

区分	市 社 協	その他	合 計
人数	369名	566名	935名

●介護予防訪問介護サービス区分別延利用者数

区分	要支援1	要支援2	合 計
人数	305名	262名	567名

●介護保険・訪問介護サービス内容別延利用回数

区分	生活援助	身体介護	身体生活	合 計
回数	2,346回	12,104回	3,745回	18,195回

●介護保険・訪問介護サービス介護度別延利用者人数

区分	介 護 1	介 護 2	介 護 3	介 護 4	介 護 5	合 計
人数	212名	201名	189名	146名	192名	940名

② 居宅介護支援事業の実施

	居宅サービス計画（ケアプラン）作成件数	一ヶ月平均件数

四日市市	1, 376件 (内、介護予防プラン130件)	115件
ゆりかもめ	855件 (内、介護予防プラン 87件)	71件
合 計	2, 231件 (内、介護予防プラン217件)	—

③介護保険認定調査業務の実施

8, 261件(更新・変更申請)の要介護認定調査を四日市市からの受託事業として、調査員18人体制で本業務を行った。

また、より精度の高い調査を行うため、介護・高齢福祉課とのミーティングを行った。

●月別件数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
在 宅	667	639	750	730	732	508
施 設	62	72	95	78	83	64
合 計	729	711	845	808	815	572

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
在 宅	490	502	477	552	555	724	7,326
施 設	69	66	75	85	87	99	935
合 計	559	568	552	637	642	823	8,261

④通所介護事業「ゆりかもめ」(介護予防事業含む)の実施

- ・「利用者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」「利用者本位」を基本理念に、安全・安心で信頼されるサービスを目指し、食事の提供、入浴、送迎、生活に関する相談・助言、健康状態の確認、その他利用者に必要な日常生活上の支援、並びに機能訓練を提供した。
- ・実利用者数 984名、延べ利用者数 8,170名、一日平均 27.8名
- ・ボランティアの受け入れを積極的に行い、ボランティアと利用者の交流を深めるとともに、施設の日課の選択肢を広げることで、サービスの向上に努めた。
- ・ゆりかもめ広報誌「ゆりかもめ通信」を年4回発行し、活動の様子等を紹介し施設のPRに努めた。

●月別利用者数(名)及び営業日数(日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	86	83	84	83	80	80	81	81	79	80	84	83	984
延利用者数	668	702	735	694	735	636	715	662	628	635	667	693	8,170
営業日数	24	24	26	25	27	23	26	24	23	23	23	25	293

・障害児・者デイサービス事業

障害児に学校休業日や放課後の日中活動の場を提供するとともに、保護者のレスパイト(休養)等を目的として、介護保険のデイサービス事業所等が活用できる「放課後等デイサービス事業」の利用施設として障害児を受け入れた。

- ・実利用者数 22名、延べ利用回数 43回

また、障害者に対する「生活介護事業所」の利用施設として障害者の受け入れも行った。

- ・実利用者数 12名、延べ利用回数 26回

(2) 在宅福祉事業の実施

①地域福祉権利擁護事業の実施

三重県社会福祉協議会の委託を受けて、判断能力に不安があり、契約内容を一定程度理解できる認知症等高齢者や知的・精神障害者等を対象に福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどの支援を行った。契約件数は269件で、昨年度に比べ30件（13%）増え、権利擁護に対する住民のニーズの高さがうかがえた。

所長1人、専門員4人、事務補助員1人、生活支援員59人（四日市市38人・三重郡21人）体制で行政、民生委員児童委員や在宅介護支援センター等と連携を図り、事業を展開した。

また、生活支援員の資質向上を図るため、生活支援員研修会を開催した。

(ア) 相談件数…5,000件(年間)

●相談対象別件数(件)及び割合(%)

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
2,581(52)	1,122(22)	1,241(25)	56(1)	5,000(100)

※相談件数は、専門員及び推進員が利用者や市民等から相談を受け支援を行った件数

(イ) 契約締結件数推移

年 度	新規契約件数	契約解除件数	年度末契約件数
23年度	83件	53件	239件
24年度	85件	55件	269件

(ウ) 平成24年度末実績

a 生活支援員の派遣状況

週に1回	隔 週	月に2回	月に1回
128件	23件	55件	63件

b 利用料負担状況(1回1,000円)

有料	無 料
30件	239件(生活保護受給者…119件、住民税非課税者…120件)

c 市町別契約件数内訳

四日市市	菟野町	朝日町	川越町	その他
219件	35件	0件	10件	5件

d 契約対象内訳

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他
148件	41件	68件	12件

(エ) 生活支援員研修会の開催

日時 平成25年1月18日(金) 10時～12時

目的 適切かつ多様な支援に対応するため、生活支援員の資質向上を図る。

参加 47名

内容 講義 「共生社会実現のための福祉コミュニティ創造のために必要な援助とは」

講師 大阪教育大学教育学部 准教授 新崎 国広 氏

「生活支援員の実務について」

講師 三四地域権利擁護センター 専門員

(3) 障害者自立支援事業の実施

①居宅介護事業の実施

障害のある人が事業者との対等な関係にもとづき、自らサービスを自由に選択し、契約によってサービスを利用する自立支援制度に基づき、自己決定・自己選択を尊重し、サービスを提供した。

●自立支援制度・居宅介護サービス延利用者数

区分	身体障害	知的障害	児童	精神障害	合計
人数	532名	84名	0	163名	779名

●自立支援制度・居宅介護サービス内容別延利用回数

区分	家事援助	身体介護	合計
回数	5,575回	6,919回	12,494回

(4) 福祉施設等管理運営事業の実施

①中地域包括支援センター

(ア) 包括的支援事業

・総合相談支援業務及び権利擁護業務

本人、家族、近隣の住民、地域のネットワーク等を通じた様々な相談を受け、相談内容に即したサービスや制度に関する情報を提供し、担当地区の在宅介護支援センターと連携を行い支援した。また、高齢者の権利擁護の観点から支援が必要な方については地域権利擁護センター等の関連機関と連携し対応を行った。(相談件数年間4,360件)

・包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

a 在宅介護支援センター中ブロック会議

中地域包括支援センターの担当地域の在宅介護支援センターを対象としたブロック会議を開催し、在宅介護支援センターのランチ機能のあり方や包括支援センターとの連携について担当職員との意見交換会を行った(年間6回)。

b 介護サービス事業者との連携

四日市市介護保険サービス事業者連絡会の企画・運営等に参画し、介護支援専門員や、他の介護サービス事業者との連携を図り、質の高いサービスの提供を図るための研修会や情報交換を行った。

c 安心の地域医療検討委員会・医療と介護の連携推進部会への参画

保健、福祉、医療の連携体制など地域医療の推進を図るため、地域医療の在り方や今後の方向性について検討を行なう委員会や部会に参画した(委員会・年間2回、部会・年間2回)。

d 医療・介護ネットワーク会議の開催

医療と介護の連携を推進するため、三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)、訪問看護ステーション、訪問リハビリ事業所など医療分野の関係機関とともに担当者間の会議(世話人会)や研修会(全体会議)を開催した(世話人会・年8回、全体会議・年3回)。

e 認知症高齢者等の地域支援体制づくり

地域で認知症高齢者を支えるための基盤づくりとして、地域の関係機関が行う認知症サポーター養成講座に講師として参加した(年5回)。

f 地域包括支援センター連絡会への参加

包括的支援事業の実施状況や介護予防事業の進捗状況の報告及び情報交換のために、市が開催する連絡会に参加した(年12回)。

g 介護支援専門員に対する支援

地域の介護支援専門員からの個別相談に応じ、支援困難事例への指導・助言等を行った。(年96件)また、地域の介護支援専門員相互の連携と資質向上を図る観点から、「ケアマネ座談会」を開催し、意見交換や研修会を通じて制度・施策に関する情報提供を行った(年2回)。

・介護予防事業に関する介護予防ケアマネジメント業務

二次予防事業対象者把握事業において対象者として決定された方について、生活機能低下の背景・原因及び課題の分析を行うとともに、個々の対象者の方に目標を設定し、目標達成状況等の評価を行った。

(イ) 要支援者(予防給付)の介護予防プランの作成

要介護認定で要支援1・2と認定された方に対して、自立に向けた具体的目標を明確にした介護予防プランを作成し支援を行った。

年間8,216件(他事業所へ委託1,661件を含む)

(ウ) 地域支援事業における介護予防事業

・二次予防事業

a 通所型介護予防事業(参加実人数198名、延参加人数799名、開催回数210回)

b 訪問型介護予防事業 (訪問実人数58名、延訪問人数89名、訪問回数83回)

・一次予防モデル事業

一次予防事業「お達者クラブ」のモデル事業を在宅介護支援センター、健康ボランティアの協力を得て、4地区(三重、神前、桜、県)で実施した。(実施回数24回、合計参加者数452名)

②くす在宅介護支援センター

・高齢者総合相談

四日市市からの委託を受けて楠地区を担当エリアとし、高齢者などの各種相談に対応した。24時間相談受付を南部陽光苑と連携して実施した。さらに、介護保険サービスの他に高齢者福祉サービスの申請代行及びインフォーマルサービスが受けられるよう支援した。

相談件数 393件

・介護予防普及啓発、福祉活動推進

転倒骨折予防教室「こけねえずクラブ」を毎月1回開催(第一水曜日、楠福祉会館)

楠地区民生委員児童委員協議会定例会参加(毎月第二木曜日)

地域行事(ふれあいホーム、各町街角くらぶ、楠ふれあい健康フェスタ、楠ボランティア交流会、くす朝市)に参加し、在宅介護支援センターPR、認知症予防、悪徳商法等の情報提供を行った。

③中央老人福祉センター(指定管理施設)

施設の市民利用に供するほか、民踊、詩吟、水墨画、大正琴教室を開催するとともに看護師を配置し、機能回復訓練及び健康相談などに応じ、高齢者の健康管理に努めた。

・健康相談日数227日 ・延人数 11,468名 ・1日平均 51名

【利用状況】

団体利用数	一般利用数	計	一日平均	開館日数	
371団体	6,555名	35,192名	41,747名	141名	296日

④障害者自立支援施設「共栄作業所」(指定管理施設)

「共栄作業所」は障害者自立支援法に定められた新事業体系への移行を平成23年4月に実施し、就労継続支援B型事業所として2年目を迎えた。当作業所は、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対し、生産活動・その他の活動をとおしての仲間づくりや生活面での自立を目指して支援を行った。また、受注作業や自主作業に取り組むとともに、利用者の高齢化・障害の重度化が進行する中で、個々の能力や身体機能に見合った作業・生活援助に努め、心身ともに充実した日々を送れるよう支援した。

さらに、利用者が地域で充実した生活を送れるよう、保護者会(NPO法人)が、主体となって取り組んできた生活ホーム「クローバー」、「しらとりホーム」の運営についても、ケアホーム担当者会議への参画や、主催行事等への協力を通じて支援を行った。

利用者数32名(定員37名)

活動	内容
自主製品づくり作業	さをり織り、縫製、布草履づくり、組紐、ビーズ作業
受注作業	リサイクル解体作業、封筒点字刻印、贈答品箱詰め、製品飾り付け作業、農耕作業、割箸の袋入れ作業、紙製品加工作業
実習	職場体験実習・社会実習(買物・ボーリング・プール・映画等)、サークル活動(おやつづくり、カラオケ、リズムダンス、ドライブ、町に出よう)
社会体験	バザー、一泊社会工場見学、さをり織り展示会

運動・レクリエーション	散歩、余暇活動、体操、音楽ダンス・ミニ運動会・カラオケ大会
-------------	-------------------------------

- ・自主製品の販売促進のため、地区文化祭などの各種即売に積極的に参加した。また、常時、製品を展示・販売していただく店舗数の拡大に努めた。今年度も小山田記念温泉病院内にて、毎月第3水曜日に訪問販売を行った。
- ・イオン四日市尾平店福祉の店活動行事、市民文化フェスティバル・みえ人権フォーラム・四郷地区文化祭などに参加し、さをり織り体験をとおして啓発活動をした。
- ・第4回目の「さをり織り展示会」を今年度も昨年に引き続き作業所で開催し、さをり織りの普及に努めた。
- ・個人、団体ボランティアとの連携を図り、作業への協力や、地域交流会(ミニ運動会)、ボランティア交流会(カラオケ大会)をとおして利用者との交流促進をした。
- ・見学者を受け入れ、利用者との交流や障害者理解の促進、福祉体験の場を提供した。
- ・昼の休憩時に遠出の散歩などによる体力づくりに努めるとともに、利用者の健康状況に合わせた給食の提供をした。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的(年3回)に開催した。
- ・全国社会就労センター協議会セルフ協議会の承認を受け、「幻のなたね油」の販売を行った。

⑤障害者自立支援施設「たんぽぽ」(指定管理施設)

重度知的障害者及び重度知的障害と身体障害を併せ持つ利用者に、利用者本位の支援を行うために、より良い個別支援計画の策定や医療相談の充実を図り、利用者の望む地域での生活をより充実するため、社会資源の活用や各種サービスの利用をコーディネートするなどの支援を行った。

身体機能の維持や社会参加への支援を行い、また利用者をはじめ障害者が在宅生活を送る上で必要な地域住民の理解と支援を促進することを目的に、施設に小中学生を受け入れ、福祉体験・職場体験・ボランティア活動の場を提供した。

利用者数34名(定員35名)

活 動	内 容
作 業 活 動	アルミ缶回収、缶つぶし、リサイクル用品解体
自 立 訓 練	水泳、散歩、身体機能訓練、理学療法(相談を含む)、作業療法、音楽療法、感覚統合療法、乗馬療法
生 活 活 動	食事、排泄、更衣、歯磨き、社会体験、買物実習、一泊社会体験、グループ外出、半日外出
文 化 活 動	レクリエーション、紙すき、ビーズ、園芸、ステンシル、工作、季節活動、音楽活動、ピアノ鑑賞
在 宅 支 援	ショートステイ先との連携及び移送介護業務先との連携、福祉制度、福祉サービス情報の提供
日 中 一 時 支 援	四日市市の地域生活支援事業として障害者自立支援法に基づく日中一時支援サービスを提供する。原則として自立支援給付費の支給決定を受けた方を対象とし、広く市民の方に施設を利用して頂けることを目指した。

- ・利用者の身体状況や家族の高齢化など家庭の事情により、外出が困難な利用者や、外出の機会が少ない利用者により一日外出、半日外出を実施するとともに、外出先で食事・買い物をするなど経験領域を広げた。
- ・宿泊を通して、利用者の様々な可能性を見出すことを目標に「一泊社会体験」(伊勢方面)を実施し、今年度より公共交通機関を利用することで、より体験の幅を広めるとともに、社会への啓発を行った。
- ・アルミ缶回収をとおして、地域住民や企業及び小・中学校との交流を深めた。四郷地区の栗狩り参加や、たんぽぽ主催のお茶会・四郷高校吹奏楽部演奏会の開催・地域清掃活動の実施・四郷地区文化祭などの地域行事に参加し、地域住民との交流を深めた。またイオン四日市尾平店での「福祉の店イベント広場」に参加して利用者の作品の体験即売とともに施設の紹介を行い住民との交流に努めた。

- ・缶回収で、地域の小学校を定期的に訪問し、児童との交流を深めるとともに、リサイクル作業活動を紹介し、環境理解や障害理解の促進を努めた。
- ・家族への福祉情報提供の他、利用者が必要とする福祉サービス施設及び関係機関との連絡調整に努めた。また、今年度は保護者会と共催し、「これからの障害者の生活」「成年後見制度」等の学習会を企画し、制度への理解や利用について知識を習得した。
- ・地域交流を深めるため、近隣の四郷在宅介護サービスセンター・グループホーム・四郷保育園等の利用者の方と行事を一緒に行い、より地域に根づいた施設運営を行った。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表、ボランティア代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的に開催した。今年度は通所バス運行中の避難訓練や施設の防災設備、備品や地域での防災等の検討を中心に行った。

⑥障害者自立支援施設「あさけワークス」（指定管理施設）

平成23年度より自立支援法の新体系「就労継続支援B型」事業に移行し、就労や生産活動の機会の提供、一般就労に必要な知識や能力向上のために必要な訓練を行なう施設として適切な運営に努めた。利用者の障害特性を把握し、一人ひとりに応じた支援プログラムを考え、個別支援計画に基づいて支援を実施した。また専門職である「職業指導員」を中心に配置し、利用者の就労意欲を引き出し、利用者によっては就労移行支援事業等への利用を目指せるよう取り組みを行なった。

利用者数12名（定員20名）

活 動	内 容
受 注 作 業	軽作業（リサイクル解体作業、シートカバー作業など）点字名刺・名刺刻印作業
自 主 作 業	押し花製品、クラフト製品
リサイクル作業	アルミ缶回収、空き缶分別作業等
レクリエーション	花見交流会、八郷地区ふれあいまつり、新年ボランティア交流会

- ・地域交流への取り組みとして、地域の多くの方々に来所していただくきっかけとして八郷地区社会福祉協議会との共催事業として「福祉の勉強会」を実施し、在宅療養について考えてみませんかという題目で講演を聞いたり意見交換を行なった。またあかつき台花クラブより花の提供を受け当施設で押し花作品を制作し、八郷西おとぎフェスタ&夏祭りにて出展・販売した。その他にも地区の招待行事「八郷ふれあい祭り」に参加し、自主製品の販売とともに施設紹介を行い近隣住民との交流を図った。
- ・施設ボランティアの登録と受け入れを積極的に行い、ボランティア連絡会の開催や利用者との交流会を実施した。
- ・体験学習の場として、市内小・中学校生徒の福祉体験やこども人権フォーラムなどを受け入れ施設や障害への理解を促す機会を提供した。
- ・施設も地域の一員であることを自覚するために、地元八郷地区連合自治会主催の清掃活動「クリーンアップ八郷」に利用者・職員全員で参加した。また月一回程度、利用者・職員全員で朝明川の堤防沿いを中心に地域の清掃を行った。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的に開催した。

⑦障害者福祉センター（指定管理施設）

障害のある人の社会参加と交流の促進を目的として、身体障害者デイサービス事業等を実施するとともに、併せて障害者福祉関係団体の支援や障害者ボランテ

アの養成、障害者福祉の啓発等を行った。各事業の実施にあたり、市社協がもつ様々の部署と連携して、公の施設として公正・公平かつ専門家によるサービスの提供に努めた。

(ア) 身体障害者デイサービス事業

a 機能訓練事業

言語訓練では、主に脳血管障害の後遺症により、言語に障害のある人を対象に言語症状や社会参加の状態に合わせて個別及び集団による訓練を行なった。また、高次脳機能障害者の集団訓練では、社会参加の機会を広げ、残された機能の向上のための訓練を実施した。

理学療法では、事故や疾病の後遺症などにより、身体機能が低下した在宅の人を対象に機能訓練を実施した。特に、家庭でできる自主訓練や公共交通機関の利用訓練を支援した。

b 社会適応訓練事業

歩行訓練では安全な移動手段としての白杖歩行技術の習得を目的として、移動面の自立支援をおこなった。白杖の紹介から申請、使用方法、そして同行援護利用時の技能について相談で対応した。また、「点字」という文字を獲得することで、自分自身で生活に必要な情報を得られるよう点字教室を開催した。視覚と聴覚に障害のある重複障害者に対して、コミュニケーション手段としての点字の学習の場を提供した。

c 創作的活動事業【自彊術教室】

創作的活動を通して生活の中に潤いをみつけるとともに障害種別を越えた仲間づくりを目的に創作的活動を行なった。自彊術教室は、24年度で終了となる。

[身体障害者デイサービス事業実施状況]

		契約者(名)	回数(回)	延利用者数(名)	
1	機能訓練事業	言語訓練	6	139	139
		社会適応訓練Ⅰ・Ⅱ	12	38	221
		終了者フォロー等		233	233
		理学療法	35	618	618
2	社会適応訓練事業	点字教室(視覚障害者)	9	20	137
		歩行訓練(視覚障害者)	3	34	34
		相談等		17	17
3	創作的活動事業	自彊術教室	7	19	53

d 障害児デイサービス事業

18歳以下の児童を対象に、長期休暇中に活動する場を提供するとともに、保護者のレスパイト(休息)等を目的として実施した。家庭や学校では体験できないことを企画し、自律と自主性を育んだ。(利用契約者数66名)

回数	小学生	中学生	高校生	計
13回	52名	10名	4名	66名

e 失語症会話パートナーとの交流会

失語症者が失語症会話パートナーを利用して、会話を楽しむ場を提供した。

	参加者(名)	回数(回)	延参加者数(名)
失語症者	18	20	162
失語症会話パートナー	15		158

f 難聴者・中途失聴者教室

人生の途中で聴覚の障害を負った人たちの話を聴くとともに、手話を体験した。

開催日	内容	参加者
2月14日	「自分の聴こえ方、コミュニケーションの方法を周りに人に上手に伝えましょう」	14名
2月28日	「中途難聴者の体験談とみんなで手話の歌を覚えましょう」	26名

g 障害者相談業務

障害者の自立と社会参加を促進するため、障害者の抱えている課題の解決に向けて言語聴覚士、理学療法士、歩行指導員など経験豊かな専門職員が相談にあたるとともに、より専門的な相談支援機関への紹介等を行った。

(イ) 障害者福祉関係団体の支援

貸館利用がより容易になるように当事者団体の1年間の優先予約や簡便な利用申請など改善を図った。また、障害者団体事務室の利用については共同で利用することで効率化を図った。一方、団体の高齢化や団体を超えての連携などの課題もあり、センター連絡会にて情報交換をしたり、知的障害者の情報交換会、障害者大会の成功に向けて支援を行なった。

登録団体：四日市市身体障害者団体連合会（6団体）、心身障害者団体連絡協議会（3団体）、障害児者関係団体（32団体）、創作的活動自主サークル（12サークル）、ボランティア団体（15団体）の登録がある。

(ウ) 障害者福祉に関する啓発・情報提供

a かけはし掲載5回

社協の広報紙『かけはし』の『障害者福祉センターだよりWITH』の常設コーナーで四日市市民向けに広報した。今後も紙面の充実や工夫をはかる。

b 障害者福祉講座の開催

開催日	内容	講師	参加者
1月6日	「わたしの暮らし・あなたの暮らし〇年後の暮らしを考える」	全日本手をつなぐ育成会の情報誌『手をつなぐ』編集委員 又村あおい氏	47名

c 出前講座の開催

障害者が地域で安心して暮らせるよう地域の障害者に関する理解の促進を図るため出前講座を開催した。情報の授受に関して自分が工夫していること、配慮して欲しいことなどについて障害当事者を講師に迎え体験談を中心に進めた。また、災害弱者になる障害者を地域でどのように支援していくのか問題提起を行った。

開催地域 八郷・県・常磐・河原田地区民生・児童委員協議会定例会や障害者団体・海蔵・小山田の地区社会福祉協議会、自治会で開催。

内 容 聴覚障害（ろう者）の理解：1箇所、肢体障害：1箇所、視覚障害者の理解：1箇所、失語症の理解：1箇所

参加人数 54人

(エ) 要約筆記奉仕員養成講座の開催等

要約筆記奉仕員派遣のコーディネートをを行った。（手書き登録者25名・パソコン登録者28名・両方登録者8名）市外協力員を含む

(オ) 社会参加支援

社会参加と交流を促進するため、基礎的な使い方を学ぶ場としてパソコン体験を実施した。
開催回数 2 回 参加者延べ： 2 人

⑧障害者自立生活支援センター「かがやき」

障害のある人が地域で自分らしい、心豊かな生活が送れるよう幅広い支援に努めた。支援対象者は身体障害者だけでなく、精神障害と身体障害が重複した重度の人や高次脳機能障害の人も多く、関係機関による支援ネットワークの構築が求められた。

(1) 相談業務

●相談件数

実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
230	132	2	43	43	1	5	12

●相談方法

	訪問	来所	同行	電話・メール	ケース会議	関係機関	その他	計
件数	353	493	71	1041	58	760	35	2,811

●相談内容

	福祉サービス	障害 病状の理解	保健・ 医療	不安解消 情緒安定	保育・教 育	家族関係 人間関係	家計・経済
件数	1,273	53	299	188	10	341	119

生活技術	就 労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	計
162	276	65	60	207	3,053

(2) 自立支援講座の開催

講座の開催（参加者47名）

日 時 平成25年1月6日（日）13:30～15:30

内 容 「わたしの暮らし・あなたの暮らし〇年後の暮らしを考える」

講 師 全日本手をつなぐ育成会の情報誌『手をつなぐ』編集委員 又村あおい氏

(3) センター広報紙「かがやきつうしん」

社協の広報紙『かけはし』の『障害者福祉センターだより WITH』の常設コーナーに一本化。障害のある人が地域で生活していく上で必要な情報提供を行う。

⑨視覚障害者福祉センター

市内在住の視覚障害者を対象に、はり・きゅう・マッサージを職業としている人の技術向上を目的とした三療講習会を開催した。

また、情報提供のため、市の公文書などの点訳業務（239件）を行ったほか、団体活動の場を提供した。

講座名	内 容	回数（回）	利用者数（名）
-----	-----	-------	---------

職業訓練	三療（はり・きゅう・マッサージ）学術講習会 講演（公開講座） ①8月16日（木）13時～16時 テーマ「スポーツ鍼灸マッサージの理論と実際」 講師 朝日山 一男 氏 日本体育協会公認アスレチックトレーナー	2	68
	②12月13日（木）13時30分～15時30分 テーマ「変形徒手矯正術」 講師 木村 喜三郎 氏 関西医療学園東洋医療学科講師		(36) (32)

⑩障害者就業・生活支援センター「プラウ」

障害者雇用は依然として厳しい状況にある中でも60人の就職者を出すことができた。相談者中には発達障害が疑われる人が多くなり、知的に重度ではないにもかかわらず、コミュニケーションスキルや社会性で多くの課題を抱えている人が目立っている。ますます専門的な支援が必要とされている。関係機関が連携しての障害者雇用についての啓発や事業所開拓はたいへん厳しい現状にあり実行性のあるネットワークの構築が求められる。

(ア) 相談業務の実施

●登録状況（名）

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
95	281	211	9	596

●ツール別のべ相談回数（回）

来所	電話 文書メール	家庭 入所施設訪問	職場訪問	他の支援 機関	合計
1,688	4,448	134	965	930	8,165

●相談内容別のべ相談回数（回）

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
就職に関する相談	431	1,144	1,069	137	2,781
職場定着に係る相談	216	2,716	1,270	42	4,244
生活に係る相談	77	379	229	15	700
就業と生活の両方にわたる相談	30	327	80	3	440
合計	754	4,566	2,648	197	8,165

●就職した障害者の数（名）

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
7	39	13	1	60

(イ) 関係機関との連携

a 自立支援協議会雇用部会、関係機関連携会議（5回）

参加機関 津障害者職業センター、北勢福祉事務所、障害者雇用アドバイザー、四日市公共職業安定所、一市三町障害福祉課、四日市市商業勤労課、学校関係、就労移行支援事業所、精神障害者相談支援、当事者団体等25機関。

内容 各関係機関の取り組みを情報交換し、障害者の雇用について啓発活動などを実施。

b 知的障害者就労支援講座（四日市市商業勤労課と共催）

日 時 平成24年7月6日(金) 開講式～13日(金)
 募集人数 知的障害者6名を募集
 内 容 講義(マナー講座)・職場実習(パソコン解体)
 成 果 一般企業へ就職1名、A型事業所へ就職1名。

(ウ) 講座の開催

就労・定着支援講座(43名)

日 時 平成25年3月16日(土)
 内 容 就労障害者を講師に招き、求職中の障害者やその家族に対して就職活動をする上で重要なことや働いている大人として持つべき意識について講座を開催した。

(エ) 定着支援のために

a タベのつどい 退社後に少人数で喫茶店等を集まり近況報告などで交流する。

第1回:平成24年 7月19日 第2回:平成24年 8月16日

第3回:平成24年10月18日 第4回:平成25年 3月16日

b 就業している障害者の激励会と交流会(38名)

日 時 平成24年12月17日(土)

内 容 「私が働く職場と働くことの意義」と題して情報交換会を実施

⑪障害者就労支援事業ワークセンター

今年度よりスタートした事業であり、就労を希望する障害者を対象に、市役所等において、就労に向けた職場訓練を行なうことにより、障害者の就労に対する意識づくりとともに、能力、適性をふまえての、市内企業等での障害者の就労訓練や就労の促進に向けた基礎づくりの一年であった。

(ア) 職場実習の状況

●実習した障害者別の人数(名)と日数

身体障害	知的障害	精神障害	合 計
3名	9名	6名	18名
63日	127日	156日	346日

●職場実習後の状況

一般就労1名、市の臨時職員として雇用1名、就労継続支援(A型)事業所へ移行2名、就労移行支援事業所へ移行2名、求職中7名、作業所に通所中4名、ワークセンター訓練中1名

⑫よっかいち福祉の店

社会福祉施設利用者や在宅高齢者などの手作り作品を、販売ボランティアの協力を得て、販売した。また、北伊勢上野信用金庫、地区文化祭等行事、その他各関係機関のご協力により、展示即売会を28回実施した。

運営委員会2回(6月・3月)を実施し、運営のあり方、収支等について協議した。

・常設店 イオン四日市尾平店3階 開店日数(年間) 365日
 四日市市総合会館1階 開店日数(年間) 221日
 ・年間売上実績 11,117点 4,058,850円

⑬おもちゃ図書館

障害の有無に関わらず、子どもが「おもちゃ」をとおして、情操や知的・身体的機能を高め、ふれあうことを目的とし、おもちゃ図書館ボランティア「よっちゃんグループ」の協力を得て運営を行った。

●おもちゃ図書館利用実績

年 間 利 用 者 数 等

児 童	3, 2 5 1名
保 護 者	2, 7 9 6名
合 計	6, 0 4 7名
年 間 開 館 日 数	2 2 9日
1日あたりの利用者数	2 6名

●団体利用実績〔35回〕

種 別	施設名	回数	延べ利用者数
通園施設	あけぼの学園	31回	319名
通園学校	県立盲学校	1回	6名

●移動おもちゃ図書館〔7回〕

実 施 日	種 別	利用者数
5月15日(火)	あがた保育園子育て支援	101名
6月20日(水)	河原田地区「すくすくサロン」	34名
8月29日(水)	内部地区子育て支援	36名
9月12日(水)	三重地区子育て支援	87名
10月 3日(水)	神前地区子育て支援	43名
3月13日(水)	八郷西保育園子育て支援	66名

●おもちゃ図書館まつり

実施日 平成24年7月26日(木)
場 所 四日市市文化会館 第4ホール
参加数 306名(乳幼児176名、大人130名)

⑭母子福祉センター(指定管理施設)

母子家庭及び寡婦の経済的・精神的負担を軽減し、生活の安定と自立を促進するため、各種相談や技能習得講座を実施した。また、趣味を通じての生きがいやふれあいづくりを目的としてサークルを支援した。 ・相談件数 304件

【技能習得講座・サークル実施状況】

講座・サークル名	登 録 者 数	回 数	延 人 数
技能習得講座			
・パソコン	32名	16回	128名
サークル			
・書 道	16名	24回	309名
・手 芸	12名	22回	208名
・ちぎり絵	14名	12回	159名
・編み物	12名	24回	225名
・和 裁	5名	27回	160名
・リフォーム	6名	24回	122名
合 計	97名	149回	1,311名

5. その他の事業

(1) 第4次地域福祉活動計画の推進

「第4次地域福祉活動計画」(平成23年度～27年度)に基づき、計画の基本理念である「安心して暮らし続けることができる『福祉のまちづくり』」を推し進め、積極的に各種事業を展開した。

(2) 福祉サービス相談窓口の開設

市社協が提供する福祉サービスに対する利用者の満足度を高め、利用者の権利を擁護し、利用

者が福祉サービスを快適に利用することができるよう支援するため、福祉サービス相談窓口を開設した。

相談受付状況

		件数
要	望	10件
請	求	0件
責	任 追 及	0件
結 果	解 決	10件
	継 続	0件

(3) 東日本大震災等被災地支援活動

東日本大震災を機に、四日市から被災地支援をしている団体の集まり「チーム四日市」の支援を目的に下記の活動を実施した。

項目	活動内容	回数及び参画団体名
情報交換会	被災地支援等を行っている団体が集まり、毎月1回、それぞれの活動や被災地の様子等について情報共有・情報交換をする場として開催した。	12回 【参画団体】 (みえ防災コーディネーター三泗ブロック、NPO法人みえ防災アドバイザー、防災一座、(社)四日市青年会議所、四日市NPOセクター会議、四日市大学、四日市市消防職員協議会、まるごと四日市地域ブランド事務局、カウンセリングオフィス優、女川町災害支援の会、NPOコスモス、国際支援NGOあい、もあはび、三重の輪、四日市萬古維新の会、あすなる応援便(四日市運送(株))、(株)東産業、(株)トーエー、(株)住友電装、四日市市民生委員児童委員協議会連合会、四日市市役所危機管理室、四日市市社会福祉協議会 計22団体)
広報(ブログ)	情報交換会の参画団体の活動報告や活動PR、支援金のための活動報告をした。	随時掲載
支援金	「チーム四日市」の参画団体が継続した活動ができるよう集まった支援金を社協が事務局になり配分委員会を設け各参画団体へ配分した。	支援金 4,741,234円 (平成23年度からの累計) 【協力団体・地区】 子ども会育成者会、民生委員児童委員協議会連合会、各地区民生委員児童委員協議会、各地区文化祭・運動会・交流会など(14地区)、市消防職員協議会、茶っ都すいざわ、支援金Tシャツ売り上げ 【第3次助成】平成24年4月1日～8月11日 【助成対象】 【第4次助成】平成24年8月12日～3月11日 【第5次助成】平成25年3月12日～原資が枯渇するまで

--	--	--

(4) 職員の安全衛生

①第1回衛生委員会

実施日・場所 平成24年7月13日(金) 市総合会館 3階技能習得室

内容:平成23年度「職員の健康状態について精密検査結果(治療経過)報告書」及び全職員の「定期健康診断結果報告書」に基づき本会の職員の健康状態について産業医からの講評、「労働災害ヒヤリ・ハット報告活動」の実施

②第2回衛生委員会

実施日・場所 平成24年10月5日(金) 市総合会館 8階第5会議室

内容:「長時間労働者への面接保健指導」の制度実施について、「実施要領」の制定、「全国労働衛生週間」の実施に合わせ、本会も10月1日～7日〔ゼロ災活動〕を実施し、各職域に啓発用ポスターとワッペンを配布、職場巡視の実施(10月10日委員全員で共栄作業所、たんぼぼ巡視実施)

③第3回衛生委員会

実施日・場所 産業医に報告後決裁文書回覧にて衛生委員会に替える

内容:衛生委員全員による「職場巡視チェックリスト」及びこれに基づく「職場巡視チェックリストの総括表」の作成、巡視2施設へ「職場巡視結果報告書」を送付し労働環境の改善を促した。

④第4回衛生委員会

実施日・場所 平成25年3月15日(金) 市総合会館 3階軽作業室

内容:平成24年度「職員健康診断結果」を基に産業医から講評、「職場復帰支援のための産業医面接の実施に関する要綱」の制定について、平成25年度本会「年間安全衛生管理計画」について、「安全衛生に関する基本方針」及び「年間安全衛生目標・スローガン」の決定

(5) 資金貸付事業の実施

生活福祉資金は、23年度に比べ緊急小口資金の利用が大幅に増加し、一時的な生活費に困っている方の一助となった。また、求職中の方を支援する生活支援費の申請は依然として多く、また、当初の期間(6ヶ月)で就職が決まらず大部分の方が延長申請(3ヶ月が限度)している状況である。

福祉金庫は、23年度に比べ、福祉金庫(B)の申請が増加し、同時に滞納も増えている。

①生活福祉資金貸付事業の実施

三重県社会福祉協議会が行う資金貸付事業で、低所得者、障害者、高齢者を対象に貸付の相談、申請、返済などの窓口を担当した。

※は貸付期間が複数年になるもの

資金の種類	貸付件数	貸付金額
※教育支援費・就学支度費	6件	7,568,000円
自動車購入費(障害者)	4件	710,000円
転宅費	2件	850,000円
生業費	1件	1,290,000円
療養費	1件	700,000円
福祉用具購入費	1件	500,000円
※不動産担保型生活資金	1件	11,004,000円
※要保護世帯不動産担保型生活資金	2件	9,598,400円
総合支援資金(生活支援費)	36件	27,215,000円
総合支援資金(住宅入居費)	5件	918,801円
総合支援資金(一時生活再建費)	1件	250,000円
緊急小口資金	88件	8,220,000円
臨時特例つなぎ資金	23件	2,300,000円
計	171件	71,124,201円

②資金貸付事業の実施

福祉金庫(A)は生活保護受給者、(B)はその他の低所得者を対象に市保護課と、国民健康保険高額療養費は、市保険年金課と、介護保険資金は市介護・高齢福祉課と連携して貸付業務を行った。

資金の種類	貸付件数	貸付金額
福祉金庫(A)	103件	1,314,610円
福祉金庫(B)	317件	8,405,000円
国民健康保険高額療養費	105件	10,654,000円
介護保険資金	1件	47,250円
計	526件	20,420,860円

(6)実習生等の受け入れ

将来の福祉を担う人材育成を目的に、福祉専門職(社会福祉士・介護福祉士・ホームヘルパー)や、看護師、または、小学校・中学校福祉体験、四日市市新規採用職員研修等を受け入れ、本会が持つ機能、役割などについて学ぶ機会を提供した。

種別	人数
社会福祉士	11
介護福祉士	4
ホームヘルパー	20
看護師	23
市新採職員	27
小・中職場体験	2
その他	20
合計	107

(7)財政基盤の安定化

①社会福祉協議会会員会費

会費の種類	会員数	会費
普通会員	1,113人	924,015円
団体会員	364団体	3,309,060円
計	—	4,233,075円

②善意の基金

香典の一部または全部、チャリティ募金等を社会福祉のために、という趣旨の寄付で、基金の運用益等を地域福祉事業の財源としている。

	積立額	基金（年度末現在）
平成24年度	3,753,916円	177,590,089円

③収益事業の実施

a 「喫茶ふれあい」の経営

営業日数	245日
年間総収入	10,718,298円
1日平均利用数	約55名
1日平均売上額	43,748円
収益金（一般会計繰入）	211,832円

b 「総合会館売店」の受託運営

営業日数	248日
年間総収入	35,802,862円
1日平均利用数	約321名
1日平均売上額	144,366円
収益金（一般会計繰入）	1,961,589円

④共同募金運動（三重県共同募金会四日市市共同募金委員会事業）の推進

種別	目標額（円）	実績額（円）	達成率(%)
一般募金	41,439,000	40,781,765	98.41
歳末たすけあい募金	1,500,000	1,492,370	99.49
合計	42,939,000	42,274,135	

⑤寄付金等

a 現金

種別	趣旨など	寄付額
善意の基金	香典の全部または一部、チャリティバザー等	3,751,314円
一般寄付	上記以外の寄付（指定寄付、NHK歳末募金、等）	92,200円
合計		3,843,514円

b 物品寄贈

車いす、未使用切手、プロレス観戦チケット、 など

⑥資産運用

自主財源の確保を目的に、本会資産運用規程に基づき、長期国債を中心とした資産運用を行い、今年度は、運用益として12,058,466円の利益があった。